

各 位

上場会社名 株式会社 ホープ
 代表者 代表取締役社長 政場 秀
 (コード番号 1382)
 問合せ先責任者 取締役経営管理部長 馬場 文秀
 (TEL 0166-83-3555)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年8月6日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

2021年6月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2020年7月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,821	77	77	65	85.73
今回修正予想(B)	1,502	17	19	16	21.77
増減額(B-A)	△318	△60	△57	△48	
増減率(%)	△17.5	△77.1	△74.6	△74.6	
(ご参考)前期第2四半期実績(2020年6月期第2四半期)	1,544	24	25	22	30.11

2021年6月期通期連結業績予想数値の修正(2020年7月1日～2021年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,714	102	102	84	110.39
今回修正予想(B)	3,395	42	44	35	46.33
増減額(B-A)	△318	△60	△57	△48	
増減率(%)	△8.6	△58.5	△56.7	△58.0	
(ご参考)前期実績(2020年6月期)	3,230	24	26	28	38.00

2021年6月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2020年7月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,766	77	77	65	85.78
今回修正予想(B)	1,457	16	17	15	19.79
増減額(B-A)	△308	△61	△60	△50	
増減率(%)	△17.5	△79.3	△77.9	△76.9	
(ご参考)前期第2四半期実績(2020年6月期第2四半期)	1,503	24	25	22	29.94

2021年6月期通期個別業績予想数値の修正(2020年7月1日～2021年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,602	92	91	77	101.38
今回修正予想(B)	3,293	30	31	26	35.04
増減額(B-A)	△308	△61	△60	△50	
増減率(%)	△8.6	△67.0	△65.9	△65.4	
(ご参考)前期実績(2020年6月期)	3,141	17	19	22	30.06

修正の理由

(第2四半期累計期間連結業績予想修正の理由)

主力であるいちご果実・青果事業のいちご果実販売において、6～7月にかけての曇天、長雨の影響で、夏秋いちごの生育が停滞し、出荷ピークがずれこむなど、例年になく出荷状況となりました。想定していない時期に出荷量が増えたことで、急遽、量販店等への販売に注力いたしましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大による需要減少も重なり、販売に苦戦いたしました。また、出荷ピークがずれこんだことで、10月以降の出荷量の回復が遅れ、入荷数量が少ない状況が続いたため、10～11月にかけての販売数量も減少する結果となりました。

最需要期となるクリスマス期においては、促成いちごの育苗期の長雨で病害が多発し、生育にばらつきが生じたことに加え、9月の残暑の影響で促成いちごの定植時期が遅れたために、例年になく生育に大幅な遅れが生じました。このことにより、弊社が主に取扱う業務用サイズの入荷量が少ない状況が続くこと、また、各メーカーのいちごの使用数量減少に伴い、販売数量も当初予定に比べて減少いたしました。市場相場価格は小玉を中心に例年になく高値が続いたために、固定価格で販売する取引先に対する利益が大幅に減少いたしました。

その他の青果の販売につきましても、コンビニエンスストアをはじめとした大手既存取引先において、フルーツを使用したアイテムの減少に伴い使用量が減少したため、売上高、利益ともに減少いたしました。

以上の理由により、いちご果実・青果事業の売上高および利益が当初の予定を下回ったため、第2四半期累計期間連結業績予想を修正いたします。

(通期連結業績予想修正の理由)

主力であるいちご果実・青果事業においては、いちご果実の最需要期であります12月のクリスマスの影響により第2四半期連結会計期間までの仕入及び販売が、他の四半期連結会計期間に比べ多くなる季節の変動があります。また、馬鈴薯事業において販売の中心となる春作種馬鈴薯は、販売時期が第2四半期連結会計期間に集中する傾向にあります。このため、第2四半期までの業績を踏まえて下半期の見通しを勘案した結果、第2四半期までの落ち込みをカバーするには至らないと予想されることから、連結の業績予想を上記のとおり修正いたします。

(第2四半期累計期間個別業績予想修正の理由)

第2四半期累計期間連結業績予想修正の理由と同様であります。

(通期個別業績予想修正の理由)

通期連結業績予想修正の理由と同様であります。

以上